

## F 桑園

開拓使が山形の藩士を招いて、この地で桑畑を作るように勧めたところから、こう呼ばれるようになりしました。  
現在、桑の木は何本か残るにすぎませんが、JR桑園駅周辺には織維・服飾に関する会社が今も残っています。

## G 宮の森

昭和三年に秩父宮、四年に高松宮がスキーをしたことから、昭和五年より宮様スキー大会が開催されるようになり、それにちなんで名付けられました。

## H 円山

札幌の街づくりに先立ち、開拓使島判官が明治二年に、「コタンベツの丘（円山）」にたつて、京都にならつて街割りをし、後に岩村通俊判官が、ふもとの村を円山村と名付けました。

## I 双子山

円山の南端から藻岩山へ延びる所に二つのコブがあり、これが双子山と呼ばれていたところから名付けられました。

## J 石山通

開拓期の主要道路として、石材や物資の輸送の大動脈となっていた通りで、石山から札幌まで馬車軌道が設置されていたことから名付けられました。

## L 山鼻

藻岩山のふもとに位置するため、山の端という意味で山端と名付けられました。後、山鼻の字が当てられました。

## K 西線

（西十四丁目と西十五丁目の間を走る市電通り沿いの通称）  
以前、市電は数系統あり、中島公園の西側を南北に走る「山鼻線」と十五丁目通りを南北に走る「山鼻西線」とが分かれていました。その後、二路線がつながり現在の形になった後も、西線という名が通称で残りました。

## M 伏見

明治四年、四戸が入植したので「四軒村」と呼ばれていた場所で、明治四十年、京都伏見神社の分霊を現伏見稲荷神社の場所に祭ったことから、地名も伏見と改められました。

## N 曙

もともと明篠（あきほの）と呼ばれていたのを曙野と改めました。  
明治四年に札幌で初めて公式の曙野共同墓地が設けられていましたが、その墓地を移転。跡地をグラウンドにし、その際に曙野を曙と当て字をしたことから、こう呼ばれるようになりました。



▲馬車軌道（石山通）



▲昭和初期の鴨々川（札幌市教育委員会文化資料室所蔵）